

第5次レッドデータブック：
絶滅のおそれのある日本の野生生物

The 5th Red Databook, Threatened wildlife of Japan

シオン

Aster tataricus

日本植物分類学会

絶滅のおそれのある野生生物の選定・評価検討会 維管束植物分科会



令和7（2025）年3月



この文献はクリエイティブ・コモンズ 表示-非営利-改変禁止 4.0 国際ライセンスの下に提供されています。

<https://creativecommons.org/licenses/by-nc-nd/4.0/deed.ja>

種毎の解説を引用する場合には以下のように記述してください。

引用表示：日本植物分類学会. 2025. シオン. 環境省（編）第5次レッドデータブック：
絶滅のおそれのある日本の野生生物.

Citation: Japanese Society for Plant Systematics. 2025. *Aster tataricus* Ministry of the Environment, Japan
(ed.), *The 5th Red Databook: Threatened wildlife of Japan*.

シオン

Aster tataricus

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 基準 D

推定開花株数が 1000 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

高さ 1-2 m。上部で枝を分けて多数の頭花を散房状につける。根出葉は長さ 65 cm に達し、有翼の長柄がある。葉身は幅 6-13 cm、長楕円形、鋸歯縁。下部の茎葉は長さ 20-35 cm、長柄があり、葉身は卵形または長楕円形。頭花は径 2-3 cm。総苞は長さ 8-10 mm、半球形。総苞片は 3 列。筒状花の花冠は長さ 6-6.5 mm。

【生活史】

多年草。花期は 8-10 月。

【生育環境】

山地の湿草原に生育。

【分布域】

本州（中国地方）・九州、朝鮮半島・中国・モンゴル・ウスリー・アムール・サハリン・シベリアに分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では詳細な個体数情報は得られなかった。過去の調査結果を基に、基準 D により VU とした。

現地調査の集計結果 2018 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	0

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1番目	2番目	3番目
要因		

件数		
----	--	--

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	シオン	<i>Aster tataricus</i>	VU
第4次 2019:	シオン	<i>Aster tataricus</i>	VU
第4次 2018:	シオン	<i>Aster tataricus</i>	VU
第4次 2017:	シオン	<i>Aster tataricus</i>	VU
第4次 2015:	シオン	<i>Aster tataricus</i>	VU
第4次:	シオン	<i>Aster tataricus</i>	VU
第3次:	シオン	<i>Aster tataricus</i>	VU
第2次:	シオン	<i>Aster tataricus</i>	VU
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

広島県[情報不足(DD)] 熊本県[絶滅危惧Ⅱ類(VU)] 大分県[絶滅危惧ⅠB類(EN)] 宮崎県[絶滅危惧ⅠA類(CR-r)] 鹿児島県[情報不足]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

指定なし

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 474pp., 284pls. 平凡社，東京.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Aster tataricus has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Aster tataricus* is listed as VU under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	—

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月